

7月末組織人数
5,121人

岩手県連ホームページは
コチラからアクセス



建労いわて

発行所

岩手県建設労働組合連合会
教宣部

盛岡市本宮一丁目7番27号
電話 019-631-3280
FAX 019-635-4015
発行者 宮本勝吉

第116回

みちのくに

生きる仲間

佐藤 知良(35)さん

北上



娘さんと寄り添う佐藤知良さん

遠野市の老舗旅館の次男でホテルマンだった父。東京都八王子市で一人親方の大工の次女で、何事にも文句を言わない生真面目な母。そんな両親のもと、私は母の里帰り出産で八王子に生まれ、宮古市で育ちました。

父方の家系には知る限り職人はいませんでした。母方のじいちゃん子だった私は、夏休みの工場で本棚作りを教えるもらったり、プラモデルを作ったり、祖父にほめられるのが嬉しくて夢中になったりと、このおかげで手先が器用になったのだと思います。

大好きな祖父は、口数が少ないけれど冗談好きで、よく遊んでくれました。離れて暮らしていた為、年に1度会えるのがすごく楽しみだった事をよく覚えています。

中学生になり学校をサボる毎日で、母に迷惑をかける事も多くなりました。た。そんな時祖父から突如の電話で、厳しいながらも優しくさとされた事をよく覚えています。

間もなくして祖父が他界し、子供ながら浅はか

私はこの役員です
盛岡建設労働組合
共済財政部長
山口 恒司さん



- Q1、この仕事を選んだ理由を教えてください。
- ・会社勤めの時に今と同じ地盤調査や防水・断熱工事等をしていました。現在独立して12年目。忙しくもありますが充実しております。
- Q2、組合加入のきっかけを教えてください。
- ・組合員さんと現場の休憩で話をしている時に、中建国保に加入した方が安くなると勧められて、組合に加入しました。今、考えると現場で話をして良かったと思っています。

後世に受け継ぐ 胸を張れるような人生を

「学業が務まらない半端物に務まるはず

「学業が務まらない半端物に務まるはず張られるような人生を歩んでいきたいと思っています。」

の学業に身が入らず、結局学校に行かない日々が続き、1年生を終えた所で自主退学をしました。その後、その後の工務店の面接を駆け回りました。しかし、学業が務まらない半端物に務まるはず張られるような人生を歩んでいきたいと思っています。

「学業が務まらない半端物に務まるはず張られるような人生を歩んでいきたいと思っています。」

「学業が務まらない半端物に務まるはず張られるような人生を歩んでいきたいと思っています。」

きんずな

◆先日、映画「シン・ウルトラマン」を観た。実におもしろかった。以前公開された「シン・ゴジラ」と同じ樋口真嗣監督の作品だ。

◆誰もが知っている不気味な雰囲気、冒頭から惹きつけられる。前半は、凄く懐かしい曲ばかりで子どもの頃を思い出させる。後半には新しい曲が取り入れられ、これもまたいい。

◆昔の特撮は、怪獣出現ですぐに自衛隊がパンパン攻撃をしていた。しかし、命もしない無駄玉が多い。今は違う。「シン・ゴジラ」の時もそうだったが、怪獣出現、政府の方針を決定、やっと自衛隊が動く。時間がかかる。攻撃開始で百発百中。現実にはこうなのだろう。

◆劇中、ウルトラマンにカラータイマーが無い事に唖然とした。あたりまえにあるものが無い。3分経ったかわからない。当初のウルトラマンのデザインとの関係があるらしい。興味がある方は調べてみるのも。

◆怪獣との戦闘、日本政府の宇宙人への対応、宇宙人同士の居酒屋での交渉。一人でも、家族でも、みんな楽しんで。それがウルトラマンだ。

【教宣部 副部長
鈴木博三】

私のこだわり
西和賀 高橋 幸夫さん
101



こだわりは師匠譲りです

の加工をしています。農家の新築が多く、和室が主体の住宅で柱の番付を付ける時は、同じ材料を何度もひっくり返し、自分が納得のいくまでこだわらる師匠でした。

棟上げが終わると、鴨居、付け鴨居、長縁（まわりぶち）と木目を気にかけて部類ごとに1軒分の材料を加工。1階の上座敷から順に材料を吟味し、鴨居と付け鴨居の目合わせ、さらには四隅の目が合うようにかく吟味に吟味を重ねながらの番付でした。なぜそこまでするのかと疑問に思いつつ、当時は早く一人前になりたいと思う日々でした。

納得のいくまで

私が大工を志し、地元棟梁に弟子入りをしたのが16歳の時でした。師匠が「もう弟子はとらない」と言っていた時の15番目に弟子入り。最後の弟子でもあり、もっぱら師匠の手元としての仕事が多かった。師匠が亡くなるまで40年余り勤めさせて頂きました。

当時、私がいた工務店は兄弟子、職人も多く年間6〜7棟位の住宅を新築して、1人の棟梁が手掛けた新築の数としては、西和賀でも上位に入る程の凄腕の師匠でした。師匠の仕事は、主に墨付けから始まり、造作材を付けて、もう少しがっぱり続けたいと思っています。

まんずあべ

今回のまんずあべは、釜石にある金物店です。店主の松永さんは、祖父と父親が営む岩手県奥州市の松永金物店で修業。20歳の頃から釜石周辺の行商の担当となり、昭和55

年10月釜石市に店舗兼自宅を構え現在に至ります。松永金物店は県内に5店舗（水沢・釜石・花巻・気仙沼・北上）あり、親族が独立採算制で経営。木工機械や建築金物、大工道具など幅広い商材を取扱い、店舗での販売の他、営業車で移動販売も行っています。釜石市内の他、遠野・大槌など片道1時間圏内の近隣市町村にも商品を配達営業し、営業車の年間走行距離が4万キロに達すると話してくれました。

常連客が多い金物店

今年で創業43周年の松永金物店。還暦を迎えた店主松永さんは「定年のない商売なので80歳までは頑張りたい」と語っています。お嬢さんは幼稚園の頃、七夕の短冊に「金物屋さんになりたい」と願いを書いたそうです。そんなお嬢さんは現在一児のママとなり、幼少時代の夢を叶え、ご両親と一緒に店頭立ち、跡継ぎとなるべく修行中。このお店は家族の笑顔が絶えない金物店として、今後も末永く愛されることでしょう。



笑顔で常連客をもてなす松永金物釜石店のみなさん

女性スタッフは現在4人。1人は可愛いお孫さんです。
【県連執行委員 釜石 佐々木記】
「松永金物 釜石店」
釜石市野田町3丁目
4・29

職人は宝



我が家の月下美人です

しまいます。短い時間で全身全霊・力一杯生きたい月下美人からは「命の尊さ」を見せつけられ

私は、幻の花と言われる「月下美人」を一目見たら、一目で、小さな苗木を育てる事になりました。主人と2人で試行錯誤を経て、2013年にやっと花芽が付き、3輪の大輪を見た時は感動し涙が出て来ました。それから毎年6月〜10月までの間に何度も咲いてくれました。この感動を短時間で終わらせるのはもったいないので、私は特に香りの強い花を1本頂いて「月下美人焼酎花」を毎年1瓶作っています。瓶の中は大輪を咲かせた状態で、2・3年熟成すると純白な色が透き通った色、焼酎も琥珀色に変わり、香りも出て来て美味しくいただけます。これからも毎年見られる様に夫婦共に精進を込めて育てて、沢山の花を咲かせたいと思います。皆様も「月下美人」を育ててみませんか。きっと感動しますよ。

【北上 主婦の会 八重樫記】

8・9月行事予定

- ★8月
 - 13日〜16日 お盆休みの為 事務所休業
 - 17日〜18日 全建総連 教宣部会 (リモート)
 - 23日 第3回 岩手県連 執行委員会 (盛岡)
 - 第101回 中建国保 岩手県支部 運営委員会 (盛岡)
 - 29日〜30日 令和4年度 中建国保 東北ブロック 研修会 (青森)
- ★9月
 - 3日 全建総連 第38回 青年技能競技大会 壮行会 (盛岡)
 - 4日 盛岡建設労働組合 第74回 家族慰安芸能祭 (盛岡)
 - 4日〜5日 北海道・東北地方 協議会 主婦交流集会 (秋田)
 - 8日〜9日 全建総連 中央執行委員会 (リモート)